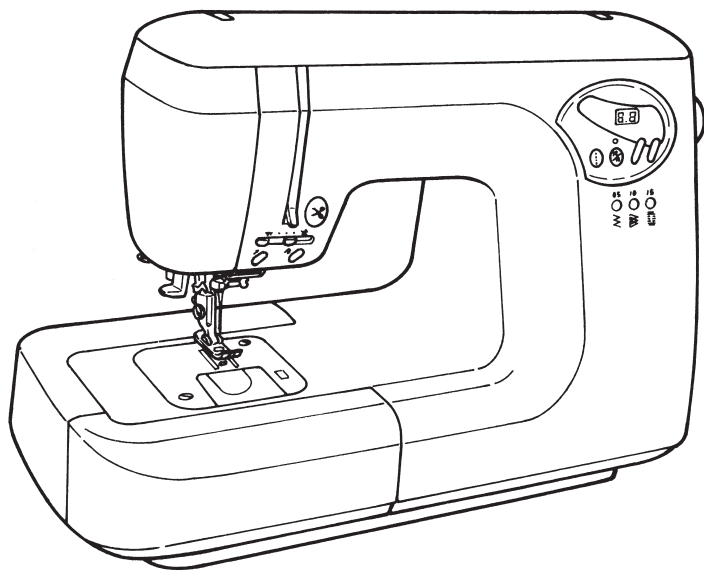


# JUKI

COMPUTER SEWING MACHINE

## HZL-T470

### 取扱説明書



**注意**

安全にご使用していただくため、  
ご使用前に必ずこの取扱説明書  
をお読みください。また、いつでも  
ご覧になれますように保管してください。

お買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

このコンピューターミシンの特長をご理解いただき、正しく安全にご使用していただくためにどうぞこの「取扱説明書」をよくご覧ください。なお、このミシンは選びぬかれた純正部品を使い、十分に品質管理された製品ですので多彩なソーイングをお楽しみください。

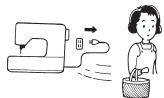
## 安全にご使用していただくために

このミシンを正しく安全にご使用していただくために、下記のことからを必ずお守りください。  
このミシンは日本国内向け、家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY



**警告** このマークの表示は感電、火災の原因となりますから、特にご注意ください。

1. 一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
2. 下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。
  - ミシンのそばを離れるとき。
  - ミシンをご使用になったあと。
  - ミシンのご使用中に停電したとき。



**注意** このマークの表示は感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。

1. コントローラーの上に物をのせないでください。  
(コントローラーは別売品です)

2. お客様ご自身での分解、改造はしないでください。

3. ミシンを操作するときはかま部などカバー類を閉じてください。

4. ミシンの縫製中は針から目を離さないようにし、針、はずみ車（プーリー）、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。

5. 針折れの原因になるような曲がった針はご使用にならないでください。

6. 針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引張ったり、押ししたりしないでください。

7. お子様はミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全にご注意ください。

8. 下記のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。

- 針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。
- 下糸、上糸をセットするとき。
- ランプを交換するとき。（ランプが冷えてから行ってください）
- 取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。



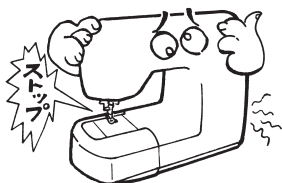
9. 落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。

10. ミシンやコントローラーに下記の異常があるときは速やかに使用を停止し、最寄りの販売店にて点検、修理、調整をお受けください。

- 正常に作動しないとき。
- 落下などにより破損したとき。
- 水に濡れたとき。
- 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
- 異常な臭い、音がするとき。

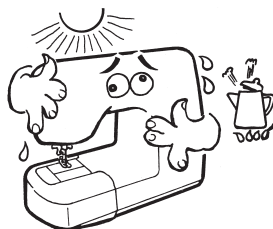
## その他のご注意

長時間のゆっくりぬいを続けると異常発熱を防ぐため、ミシンが止まるようになっています。

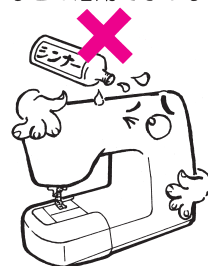


約 20 分で安全装置が復帰して正常にご使用できます。

直射日光が当たる場所、湿気が多い場所には置かないでください。



シンナーなどの溶剤でふかないでください。

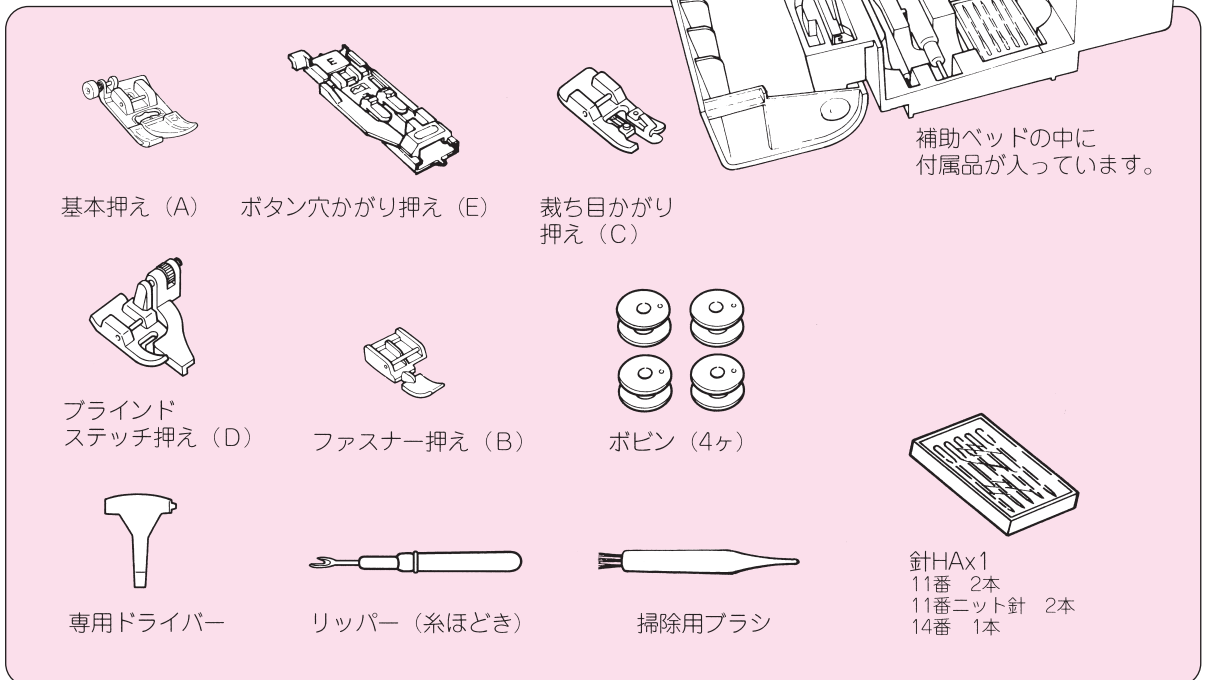


柔らかい布に中性洗剤を少量つけて、よくふきとってください。

# もくじ

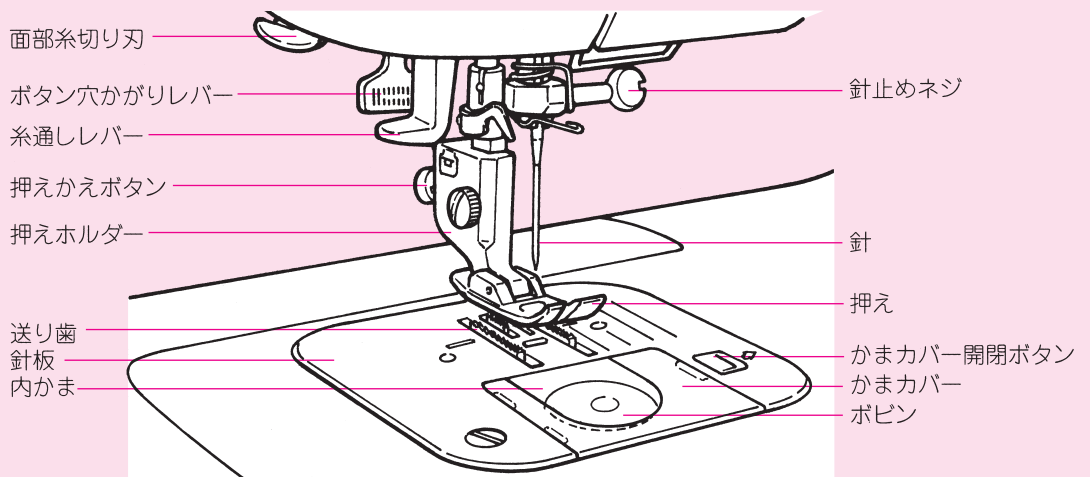
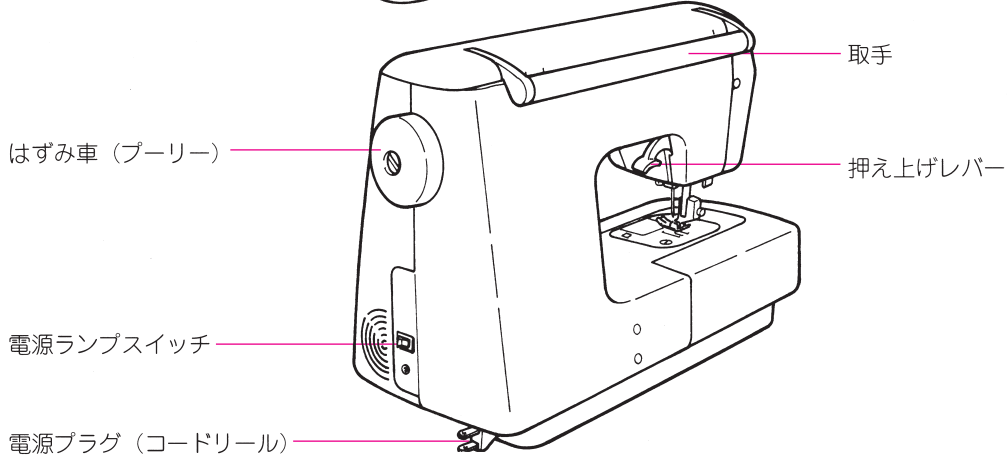
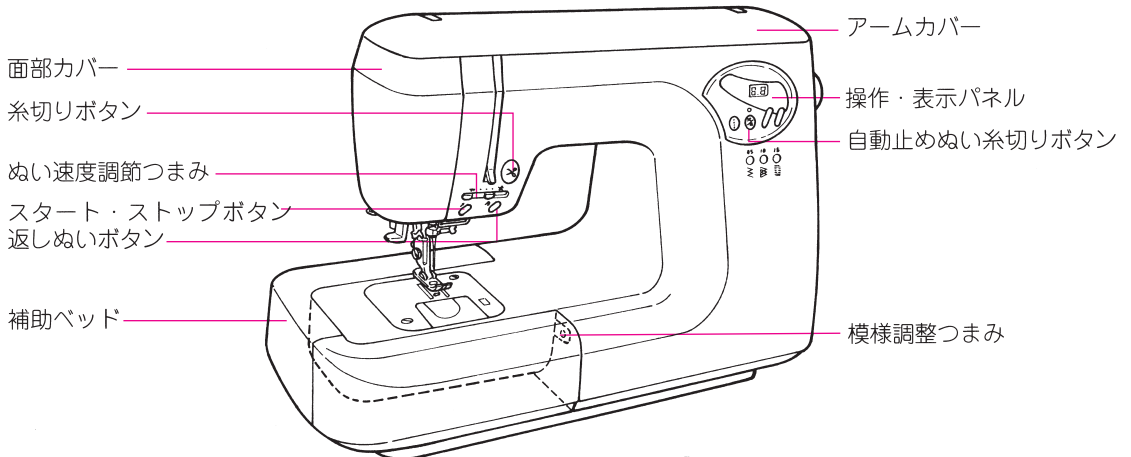
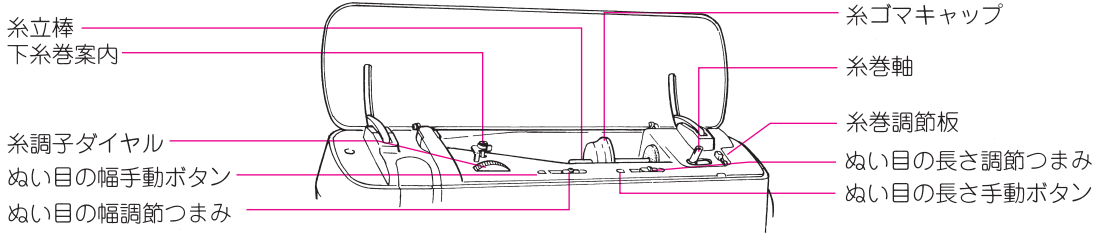
安全にご使用していただくために	1	ジグザグぬい	13
付属品	2	ぬい目の幅を変えるには	13
各部のなまえ	3	裁ち目かがり	14
主なはたらき	4	伸縮直線強化ぬい (ストレッチステッチ)	14
模様の種類と操作・表示パネル	5	自動ボタン穴かがり	15
下糸を巻くには	6	ダーニング	16
内かまにボビンを入れるには		ファスナーつけ	17
上糸のかけ方	7	脇あきファスナーつけ	
針自動糸通し		つき合わせファスナーつけ	
下糸の引きあげ方		まつりぬい (ブラインドステッチ)	18
押えのとりかえ方	8	パッチワーク	18
押えと各模様の関係	8	別売品のご紹介	19-21
ぬい目の長さを変えるには (手動)	9	コンシール押え、三ツ巻き押え、手動BH押え、	
布地・糸・針の関係	10	上送りアタッチメント、キルトアタッチメント、	
糸調子を変えるには (手動)	10	スムーズ押え、コントローラー	
直線ぬい	11	仕様表	21
伸縮地の直線ぬいには		針の交換	22
自動糸切り	11	ランプの交換	22
自動止めぬい糸切り	12	お手入れ (掃除)	22
手動止めぬい	12	故障かな…というときは	裏表紙
いせ込みギャザーの寄せ方	12	アフターサービスと保証	裏表紙
布地の裏で糸を結ぶには	12		

## ■付属品



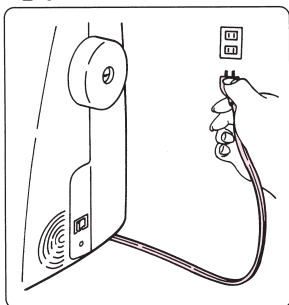
※基本押え (A) は最初ミシン本体にとりつけられています。

■各部のなまえ



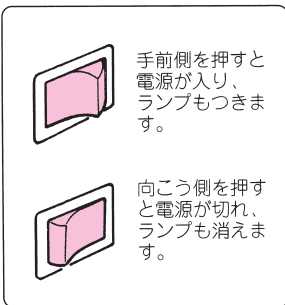
# ■主なはたらき

## 電源・コードリール



コードを引き出します。  
コードを少し引いてゆるめま  
すと巻きこみます。

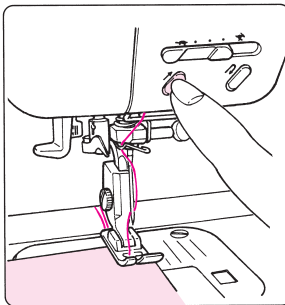
## 電源ランプスイッチ



手前側を押すと  
電源が入り、  
ランプもつきます。

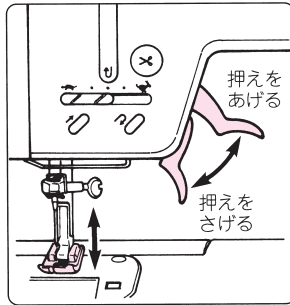
向こう側を押す  
と電源が切れ、  
ランプも消えます。

## スタート・ストップボタン



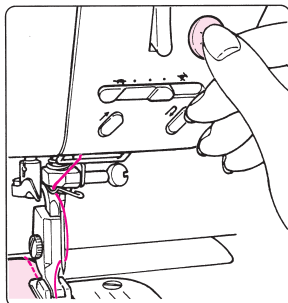
ミシンをスタートさせます。  
再度押すとストップします。

## 押え上げレバー



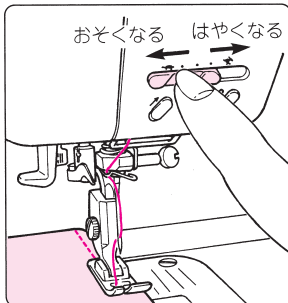
上にあげると押えがあたりま  
す。下へさげると押えはさが  
ります。

## 糸切りボタン



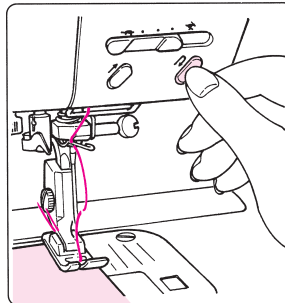
ボタンを押すと上・下糸が自  
動的に切られ、針は上で止ま  
ります。  
※その後、下糸が針板上にみ  
えなくても、続けてぬうこと  
ができます。

## ぬい速度調節つまみ



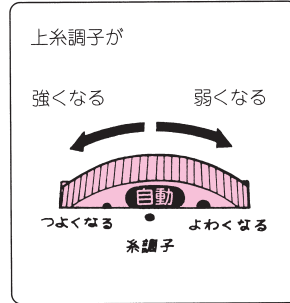
ぬい速度を調節します。

## 返しぬいボタン



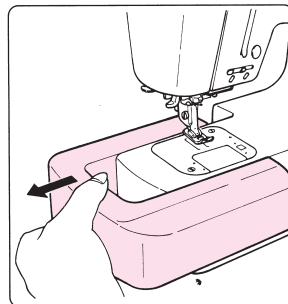
ぬい始め、ぬい終わりに返しぬ  
いをするとうぬい目がほつれま  
せん。

## 糸調子ダイヤル



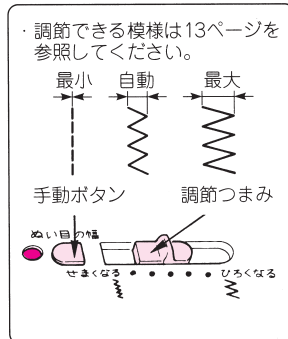
上糸調子を調整します。

## フリーアーム

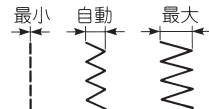


補助ベッドを左へ引きますと  
フリーアームになります。

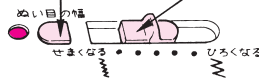
## ぬい目の幅の調節



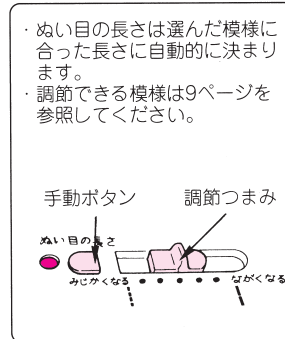
・調節できる模様は13ページを  
参照してください。



手動ボタン 調節つまみ

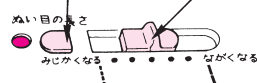


## ぬい目の長さの調節



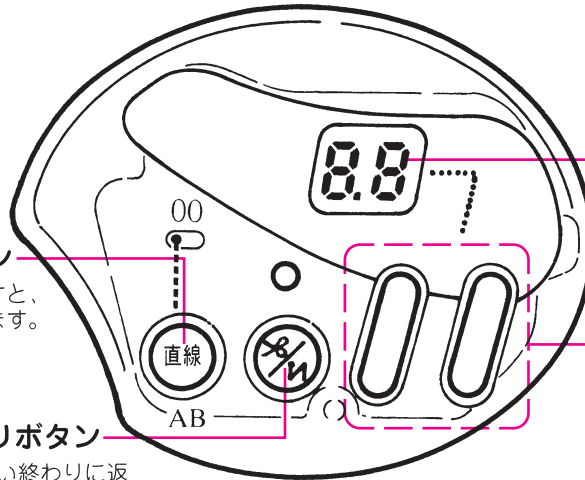
・ぬい目の長さは選んだ模様  
に合った長さに自動的に決ま  
ります。  
・調節できる模様は9ページを  
参照してください。

手動ボタン 調節つまみ



ジグザグのぬい目の幅と各模様のぬい目の長さを変えるには：  
手動ボタンを押して（ランプがつきます）調節つまみを動かすと、  
画面の設定値がわかりますので、お好みの位置に合わせます。

## ■ 模様の種類と操作・表示パネル



### 模様No.表示窓

\*電源を入れると、自動的に00（直線：左基線）が選ばれます。

### 模様No.シフト選択ボタン

ぬいたい模様の模様No.を入力します。左が十の位、右が一の位です。

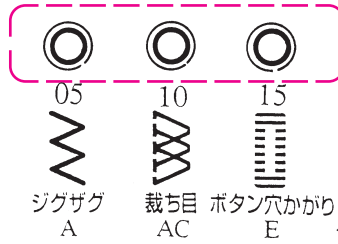
### 直線ぬい選択ボタン

他の模様のように押しますと、左基線の直線ぬいになります。

### 自動止めぬい糸切りボタン

自動的に、ぬい始めとぬい終わりに返しぬいをし、ぬい終わりには上下の糸切りをします。

\*自動止めぬい糸切りボタンを押すと、表示ランプが点灯します。



### 代表模様選択ボタン


ジグザグ A 裁ち目 AC ボタン穴かがり E ◀ 押え記号

模様No.	00	01	02	03	04	05
模様	直線	直線	直線	ジグザグ	縦線	斜線
押え記号	AB	A	AB	A	A	A
	06	07	08	09	10	11
模様	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線
押え記号	A	D	D	AC	AC	A
	12	13	14	15	16	17
模様	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線
押え記号	A	A	E	E	E	E

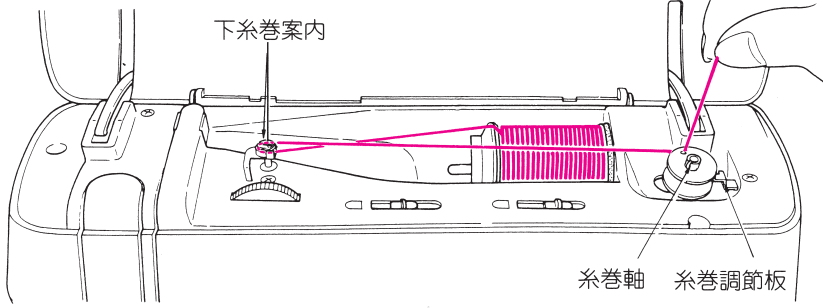
このミシンは伸縮素材（ニット、ジャージー地など）に適したぬい目（模様）を備えています。

伸縮地用模様			
03	04	06	08
伸縮直線ぬい	伸縮直線強化ぬい	三点ジグザグ	伸縮まつりぬい

# ■下糸を巻くには

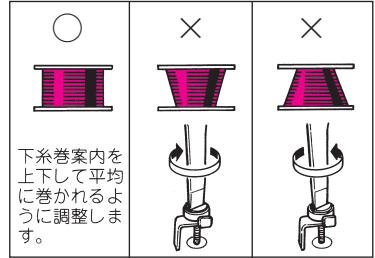
※下糸巻状態で電源を入れると、ピピッと音が4回鳴ります。  
下糸巻状態のとき、表示窓の表示は  点滅が回る状態になります。

## ●下糸巻きの糸のかけかた

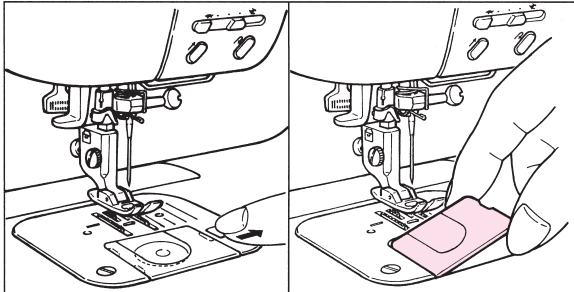


## ●下糸巻きの調節

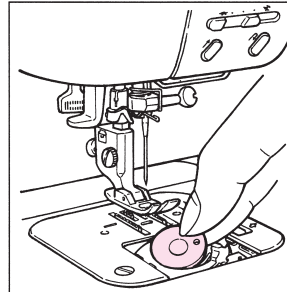
糸によって、下糸が片寄って巻ける場合に調節します。



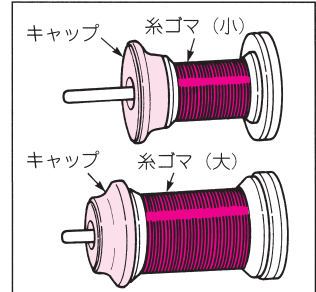
### 1 かまカバーを開けます。



### 2 ボビンをとり出します。



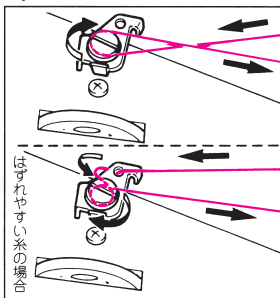
### 3 糸ゴマをセットします。



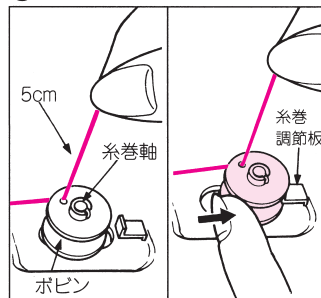
**▲注意** かまカバーを開けるときは電源スイッチを切ってください。

糸ゴマの外周に応じてキャップの裏表をかえてとりつけます。

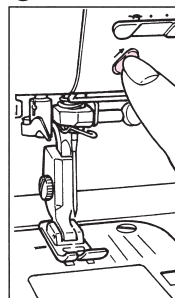
### 4 下糸巻案内に入れます。



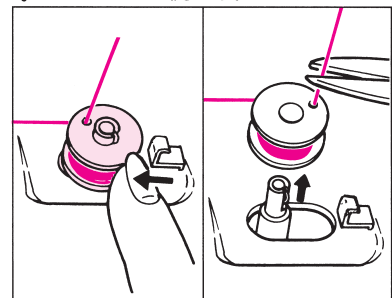
### 5 ボビンを糸巻軸にセットします。



### 6 スタートさせます。



### 7 ボビンを左側に戻します。



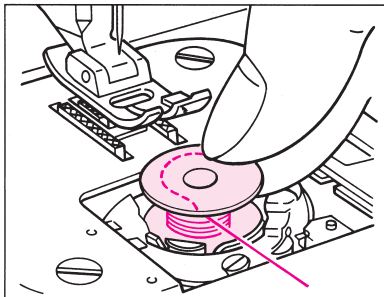
糸は右回りに下糸巻案内にかけます。  
※化繊糸など糸がはずれやすいときには、下糸巻案内の穴に通してからかけます。

ボビンを糸巻調節板へ押しつけます。

巻き終わったら再度スタート・ストップボタンを押します。

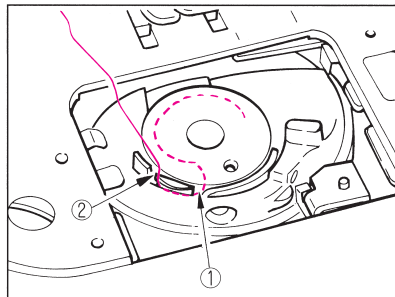
余分な糸を切り取りボビンを取り出します。

### 8 内かまに入れます。



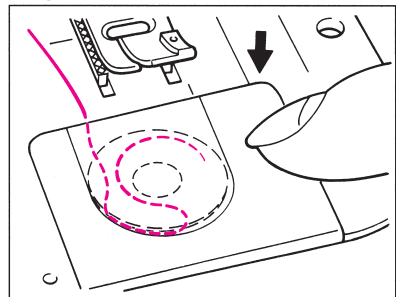
ボビンの糸巻き方向を左巻きに！

### 9 内かまに糸をかけます。



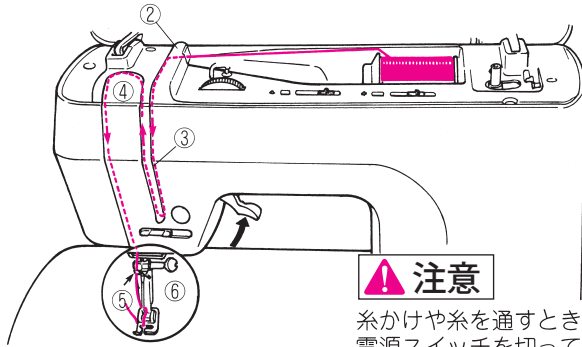
①に糸をかけ②のミソの上のせ後ろへもって行きます。

### 10 かまカバーを閉じます。



## ■上糸のかけ方

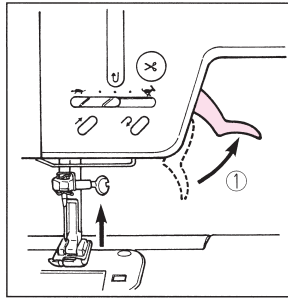
※必ず押えを上げてから糸をかけてください。



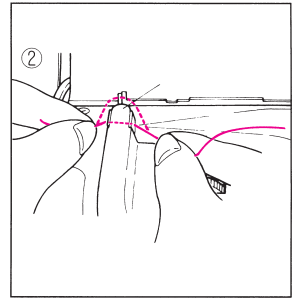
**注意**

糸かけや糸を通すときは電源スイッチを切ってください。

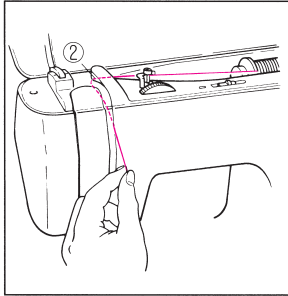
**1** 最初に押え上げレバーをあげます。



**2** 糸案内にかけます。

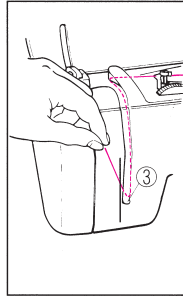


**3**



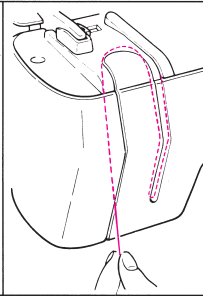
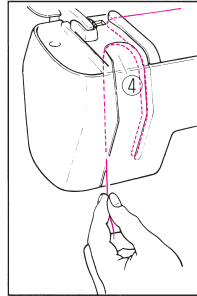
ミゾに入れて下にもって行きます。

**4**

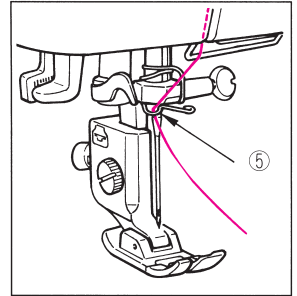


③から上にもって ④から下にもって行きます。

**5**



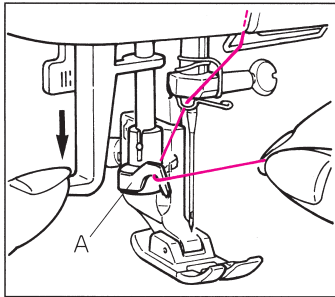
**6**



⑤は右側からかけます。

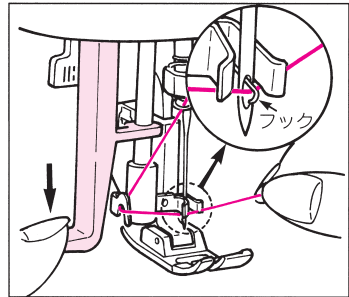
針自動糸通し ※針が最上点にあることを確認してください。

**1** 押えをさげ、糸通しレバーをさげます。



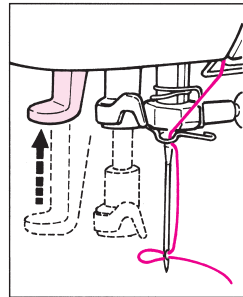
針を上にあげてから糸通しレバーを途中（重くなる直前）までさげてA部に糸をかけます。

**2** 糸通しレバーをさげます。



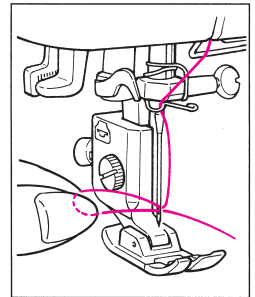
さらに糸通しレバーをさげてフックに糸をかけます。

**3** 糸通しレバーをあげます。



指をはなすとフックが糸をひっかけて針穴に通します。

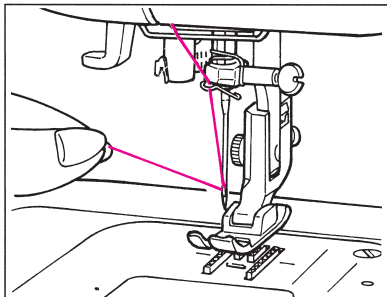
**4** 糸を引き出します。



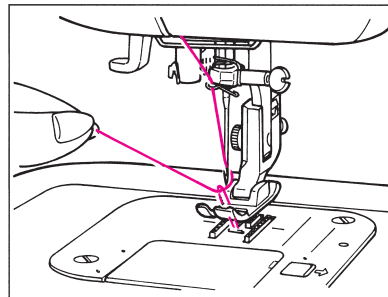
通した糸を針穴から10センチぐらい引き出します。

下糸の引きあげ方

**1** 上糸を軽くもちます。

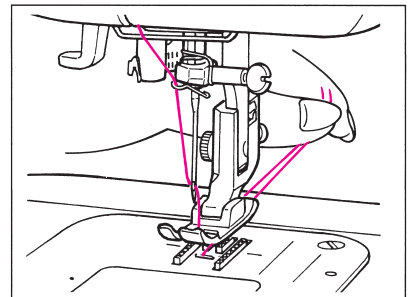


**2** はずみ車を手前に回します。



針が上下して下糸を引き出します。

**3** 上・下糸を10センチ出します。



上・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。



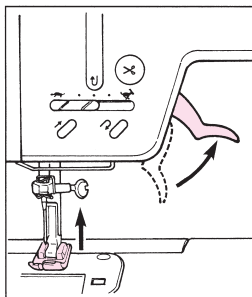
## ■押えのとりかえ方



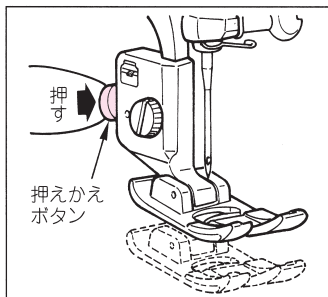
**注意**

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えをあげます。

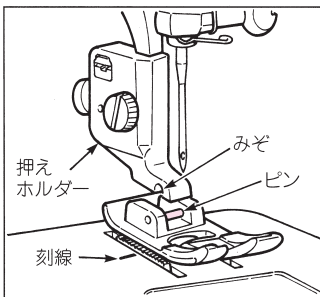


2 押えをはずします。

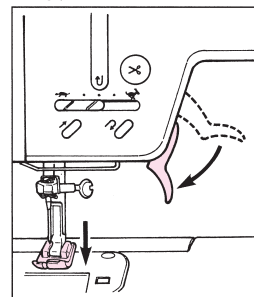


押えかえボタンを矢印の方向に押しします。

3 押えのピンと刻線を合わせます。



4 押えをさげます。



押え上げレバーを下げると押えはセットされます。

## ■押えと各模様の関係



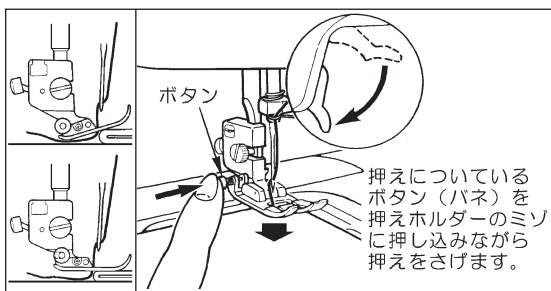
**注意**

押えをまちがえすと針がぶつかり、折れたり、曲ったりしますのでご注意ください。

押えと記号	基本押え										ファスナー押え		裁ち目かがり押え				
	押え記号A										記号B		記号C				
模様	00	01	02	03	04	05	06	09	10	11	12	13	00	02	左基線使用	09	10
主な用途	左基線	中基線	玉止め 左基線	伸縮直線ぬい	伸縮直線強化ぬい	ジグザグぬい	裁ち目かがり	三点ジグザグ	厚地用 普通地用	アップリケ	パッチワーク		ファスナーつけ			厚地用	普通地用
		直線ぬい						裁ち目 かがり								裁ち目かがり (オーバーロック)	

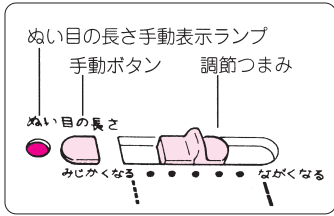
押えと記号	ブラインドステッチ押え		ボタン穴かがり押え				
	記号D		記号E				
模様	07	08	14	15	16	17	
主な用途	まじりぬい	伸縮地用 まつりぬい	ダーニング	両かん止め	ねむり	ハト目	ボタン穴かがり

### ●厚地のぬい始め



段部のぬい始めは、押えについているボタンを使うと、押えが布地と平行になり、スムーズにぬうことができます。

## ■ぬい目の長さを変えるには・・・



- 電源を入れなおしたり、模様を選びなおすと、自動的に適正なぬい目の長さがセットされます。
- お好みのぬい目の長さにしたときは手動ボタンを押して（ランプがつかます）調節します。（手動の解除は模様を選びなおすが、再度、手動ボタンを押します。）
- ランプがついていないときはつまみを動かしても、ぬい目の長さは変わりません。

模様	00	01	02	03	04	05	06	07	08
ぬい目の長さ	自動	2.4		2.6		2.0	1.2	2.0	1.8
	手動の範囲	0.0~4.0		1.2~4.0	一定	0.0~4.0		0.4~4.0	

模様	09	10	11	12	13	14	15	16	17	
ぬい目の長さ	自動	2.4	1.4	2.6	2.0	2.6	1.0	0.4	0.5	0.6
	手動の範囲	一定	0.6~2.2	1.2~2.6		一定	0.6~2.0	0.2~1.0		

### 直線ぬいの自動、手動のぬい目の長さの例

#### 自動

**自動の場合:**  
調節つまみの位置に関係なく適正なぬい目の長さが設定されます。

#### 手動のとき

ぬい目の長さが数秒間表示されます。




手動ボタンを押して調節つまみを表示ランプの点滅位置より右に動かしたとき

点滅位置より左に動かしたとき

- 調節つまみを動かすとピッと鳴りますので、お好みの位置に合わせます。
- 手動のときでも自動の位置になりますと手動表示ランプが点滅します。

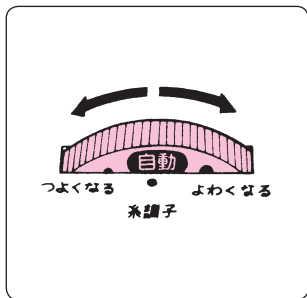
※ぬい目の幅を調節するには13ページを参照してください。

## ■布地・糸・針の関係

	布地	ミシン糸	針
<b>薄地ぬい</b> 	ローン	絹ミシン糸 80~100番	HA×1 (9番)
	ジョーゼット	化繊・細ミシン糸 90・100番	11番
	トリコット	化繊ミシン糸 60~100番	ニット針 11番
	ウール・化繊布	絹ミシン糸 80番 化繊ミシン糸 60~100番	11番
<b>普通地ぬい</b> 	普通木綿・化繊布	綿糸 50~80番 化繊ミシン糸 50~60番	11~14番
	薄手ジャージー	絹ミシン糸 50番	ニット針 11番
	一般ウール・化繊服地	化繊ミシン糸 50~60番	11~14番
<b>厚地ぬい</b> 	デニム	綿糸 30~50番 化繊ミシン糸 30~50番	14~16番
	ジャージー	絹ミシン糸 50番 化繊ミシン糸 50~60番	ニット針 11番
	コート地	絹ミシン糸 50番	11~14番

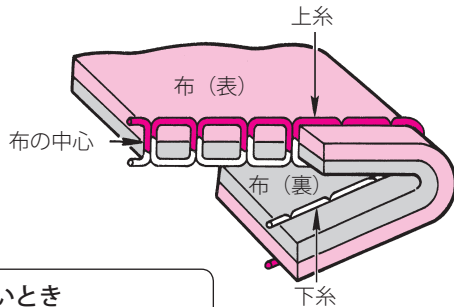
※ニット針（HA × 1sp）は目とびを防ぎ伸縮性の布地に適します。

## ■糸調子を変えるには・・・

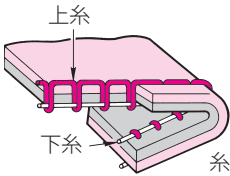
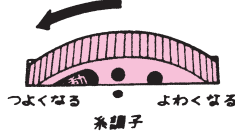


- 自動の位置に合わせるとほとんどの布地に適応できます。
- 特殊な素材など糸調子が変わったときは下表のように調整します。

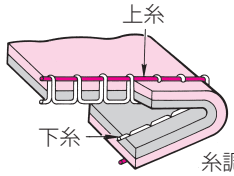
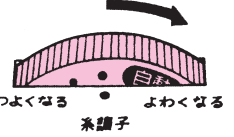
通常の糸調子は上糸と下糸のからんでいるところが布の中心です。



× 上糸の調子が弱いとき

× 上糸の調子が強いとき

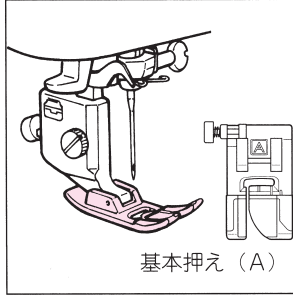



# ■直線ぬい

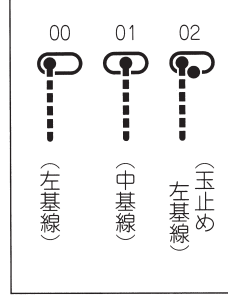
直線ぬいは、ぬいの基本です。布地に適した針と糸を選びましょう。

**注意** 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

**1** 押えを確かめます。

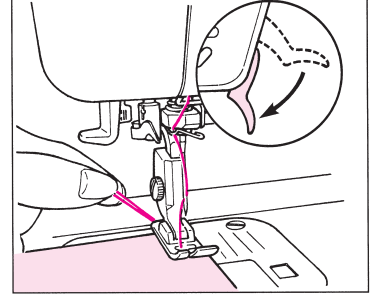


**2** 直線もようを選びます。



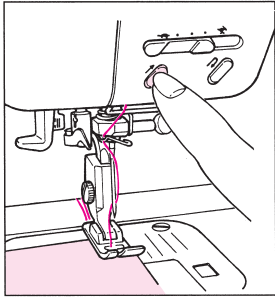
電源を入れると自動的に00(左基線)が選ばれます。

**3** 布地を入れ、押えをさげます。

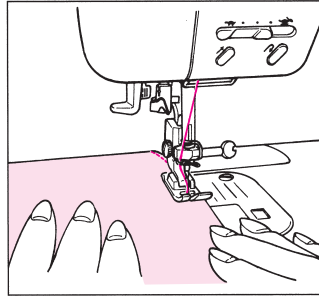


布地を押えの下におき、ぬい始める位置に針をおとします。上・下糸をそろえて押えをさげます。

**4** スタートさせます。

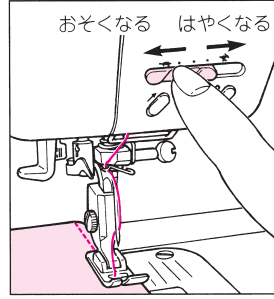


**5** 布地に軽く手をそえます。



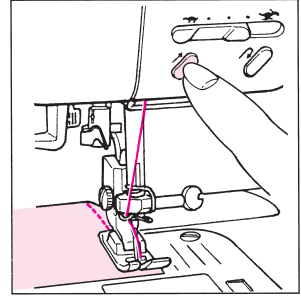
ぬっている間は布地をムリに引っばらないようにします。

**6** ぬい速度を調節します。



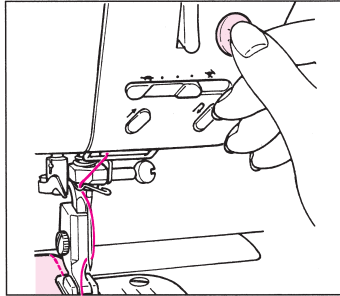
右にするとはやくなります。左にするとおそくなります。

**7** ストップさせます。



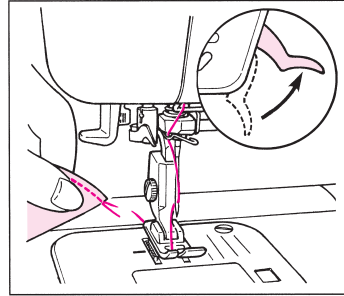
スタート・ストップボタンを押します。針は下で止まります。

**8** 糸を切ります。 [自動糸切りは下記参照]



糸切りボタンを押します。

**9** 押えをあげて布地を取り出します。



針が完全に止まってから、押え上げレバーをあげます。上・下糸が同時に切れて、布地が取り出せます。

※糸切りした後、下糸が針板上に見えなくても、次にぬうことができます。

## 玉止め左基線



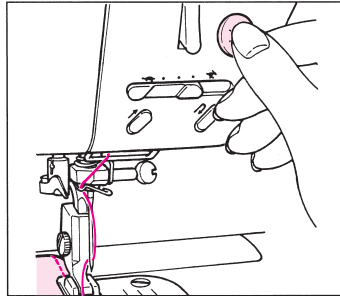
ぬい始めに返しぬいボタンを押し続けると、数針の止めぬいをして止まります。スタート・ストップボタンで直線ぬいをします。ぬい終りに返しぬいボタンを押し続けると、数針の止めぬいをして止まります。

## 伸縮地の直線ぬいには！



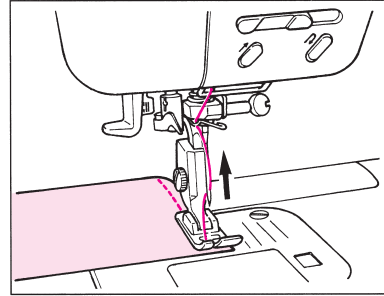
ぬい目が伸縮しますのでニット、ジャージー地などの直線ぬいとして使用できます。

**1** 糸切りボタンを押します。



ぬい終わったら、糸切りボタンを押します。

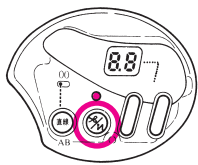
**2** 針が動きます。



針が動いて上糸と下糸が切れます。針は上で止まります。

※自動糸切りをしたとき下糸が針板上に見えなくても、続けてぬうことができます。

## ●自動止めぬい糸切り（自動返しぬい糸切り）



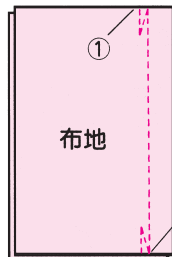
ぬい目がほつれないように…  
ぬう模様を選んでから

④ ボタンを押すと、表示ランプが点灯して、すべての模様のぬい始めとぬい終わりに止めぬいを行い、自動的に糸切りができるように設定されています。

\*自動止めぬいを解除するには3通りの方法があります。

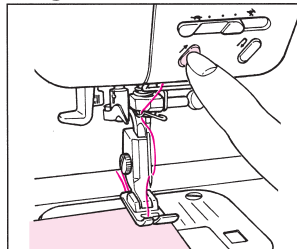
- (1) もう一度 ④ ボタンを押します。
- (2) 他の模様を選びます。
- (3) 電源を入れ直します。

例：直線ぬい



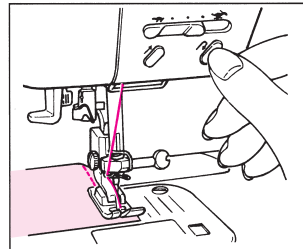
①模様を選んだあと

④ ボタンを押します。



止めぬいをしてスタート位置から自動的にぬい始めます。

②返しぬいボタンを押します。



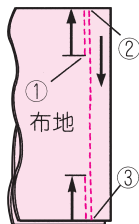
所定の位置で返しぬいボタンを押すと、止めぬいをして所定の位置で止まり、糸切りします。

\*ストップボタンを押してから返しぬいのボタンを押しても止めぬい後糸切りをします。

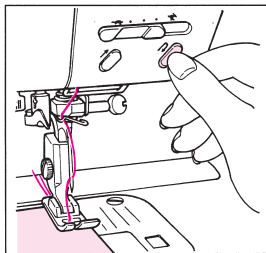
## ●止めぬい（返しぬい）

多めの返しぬいをしたい場合お使いください。

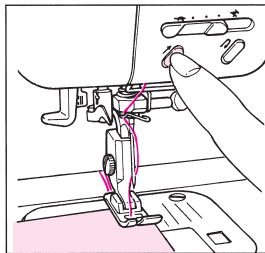
※返しぬいボタンは押している間だけ返しぬいができます。  
※返しぬいはゆっくりな速度になっています。



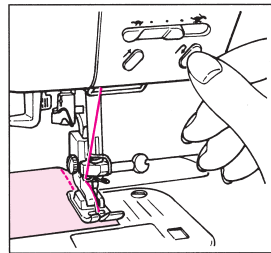
①返しぬいボタンを押します。



②スタート・ストップボタンを押します。



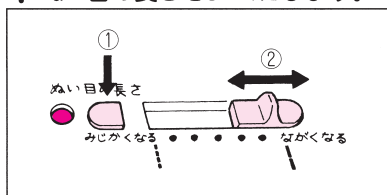
③返しぬいボタンを押します。



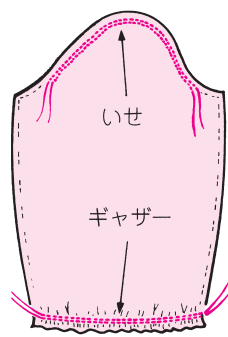
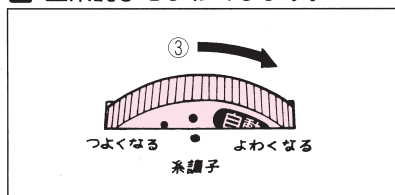
## ■いせ込みギャザーの寄せ方（直線ぬい）

袖山やスカートのウエストなどにいせ込みをする場合と袖口やヨークなどにギャザーを入れる場合は、上糸調子をよわくしてぬい、そのあと手で下糸を引いて布地をちぢめます。

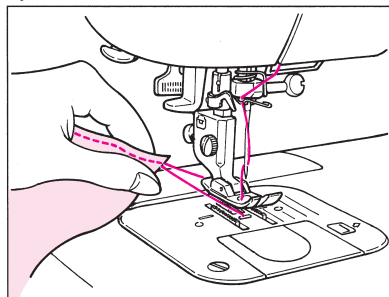
1 ぬい目の長さを3~4にします。



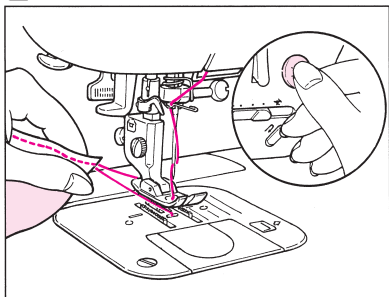
2 上糸調子をよわくします。



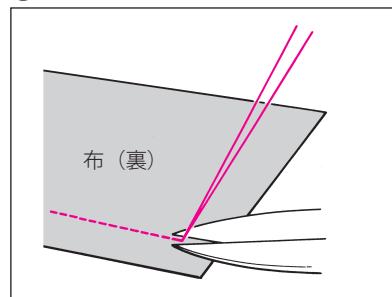
1 布地を取り出します。



2 糸切りボタンを押します。



3 布地の裏で糸を結びます。



ぬい終わったら、針をあげてから押えをあげて布地を静かに後ろへ引き出します。

上糸と下糸をそろえて10センチくらい引き出し、押えを下げて糸切りボタンを押しますと上、下糸が同時に切れます。

布地の裏側に上糸を引き出し、上糸と下糸を結び、結び目のきわで糸を切ります。

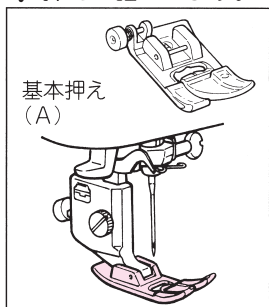
# ■ジグザグぬい



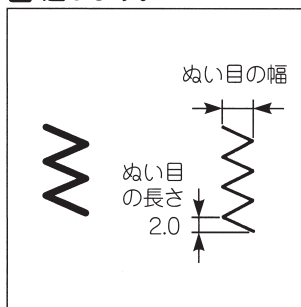
**注意**

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

**1** 押えを確かめます。



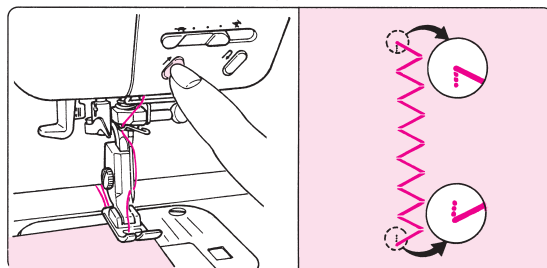
**2** ジグザグ模様を選びます。



**自動設定:**  
ぬい目の幅...5.5 mm  
ぬい目の長さ...2.0 mm

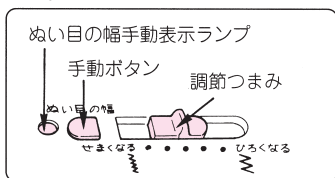
## ■自動止めぬい

ぬう模様を選んでから ⊗ ボタンを押します。  
布地をぬい始める位置に入れ、スタートさせます。



止めぬいをしてからぬい進みます。  
所定の位置で返しぬいスイッチを押します。  
止めぬいをして、所定の位置で自動的に止まります。

## ■ジグザグのぬい目の幅を変えるには



- ぬい目の幅の手動ボタンを押して（ランプがつきます）から、調節つまみをお好みの振り幅に合わせます。
- 手動設定を自動に戻すには模様を選びなおすか、もう一度手動ボタンを押します。
- ランプがついていないときはつまみを動かしても、ぬい目の幅は変わりません。

## ジグザグのぬい目の幅を手動にした場合とぬい目の長さの自動・手動の例

ジグザグの振り幅	ぬい目の幅			
	00	15	40	55
自動	2.0	2.0	2.0	2.0
手動の範囲	最小 0.0 最大 4.0	最小 0.0 最大 4.0	最小 0.0 最大 4.0	最小 0.0 最大 4.0

※ぬい目の幅が数秒間表示されます。

※ぬい目の長さが数秒間表示されます。

## ぬい目の幅を変えられる模様

模様	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17
ぬい目の幅	自動 5.5 手動 0.0~5.5	7.0 2.5~7.0	3.5 1.0~3.5	5.0 2.0~5.0	5.8 2.8~5.8	3.5 2.5~6.0	7.0 2.5~7.0	5.0 5.0~7.0	3.0~5.0	5.0 5.0~7.0			

## 基線を変えられる模様

模様	00	01	02	03	04
基線の幅	0.0	3.5	0.0	3.5	0.0~3.5

- 手動ボタンを押して（ランプがつきます）から、調整つまみを動かすと画面の設定値がかわりますので、お好みの位置に合わせます。

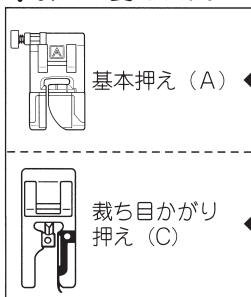
## ■裁ち目かがり

布地の裁ち目がほつれるのを防ぐために用います。

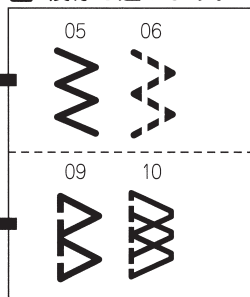
### ▲注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 模様にあった押えに変えます。



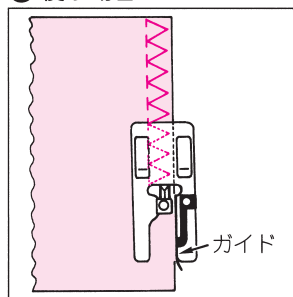
2 模様を選びます。



05、06の模様は必ず基本押え (A) をお使いください。

4種類のうちお好みの模様を選びます。(C) 押えを使うときは、必ず09か10を選びます。

3 裁ち目かがり押えを使う場合



布端をガイドにあててぬいます。

## ■伸縮直線強化ぬい

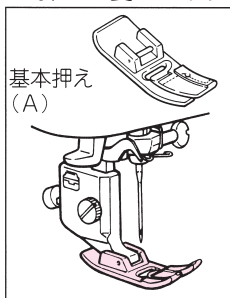
(ストレッチステッチ)

伸縮性のある布地や、力が加かってほつれやすい部分などに使うとぬい目がしっかりします。

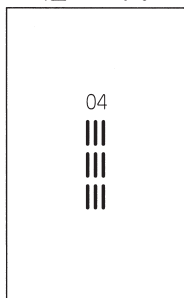
### ▲注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えを変えます。

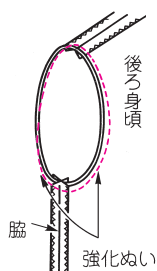


2 模様を選びます。



### ■使用例

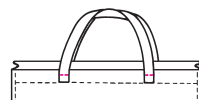
●袖つけ



●よく使用するポケットつけ



●袋ものにとってつけ



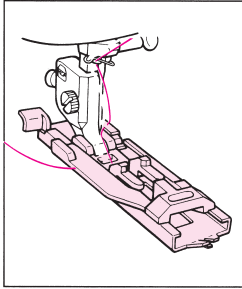
# 自動ボタン穴かがり

ぬう布地やボタンの大きさに合わせて模様を選びます。

## 注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押え (E) をセットします。



上糸を押えの下へくぐらせ横へ出します。

2 目的に合ったボタン穴かがりを選びます。

模様	主な用途
15	薄い布地 (シャツ、ブラウスなど) の小さいボタンに使用します
16	薄い布地 (シャツ、ブラウスなど) の大きいボタンに使用します
17	厚い布地 (スーツ、オーバーなど) の大きいボタンに使用します

3 一度押えをさげて、ボタンをセットします。

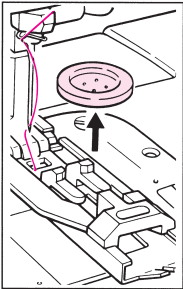


ボタンをセットしたら、スライド部分を押し、穴の長さを決めます。

かがり穴の長さはボタンをセットするだけで自動的に決まります。

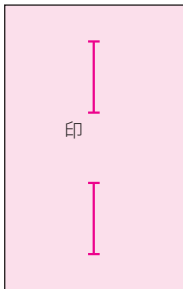
(押えにボタンがのらないときは、ボタンの直径+ボタンの厚みがかがり穴の長さです。)

4 ボタンをはずします。



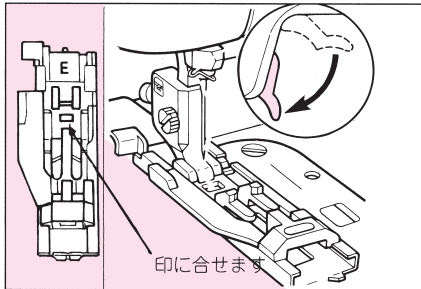
長さが決まりましたらボタンをはずします。

5 布地に印をつけます。



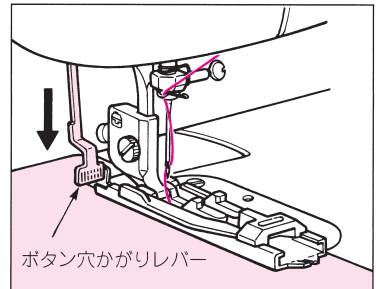
ボタン穴の位置にチャコで印をつけます。

6 印に合わせて押えをさげます。



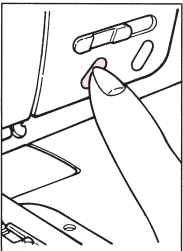
印を押えの針穴の中心に正しくセットして、レバーを止まるまでさげます。

7 ボタン穴かがりレバーをさげます。



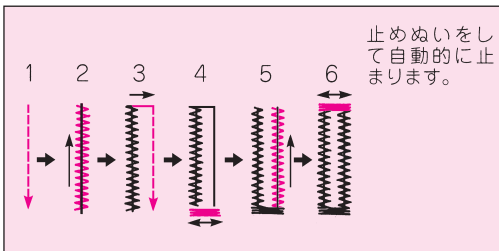
※レバーをさげないでスタートさせると、警告音が鳴り、ミシンが動きませんのでレバーをさげます。  
 ※ボタン穴の大きさをまちがえたり、途中で糸切れしたとき、ミシンを止めて模様を選び直すと、最初からぬうことができます。

8 スタートさせます。



スタート・ストップボタンを押します。

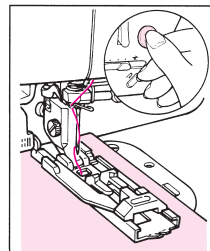
ぬわれる順序 ( の場合)



止めぬいをして自動的に止まります。

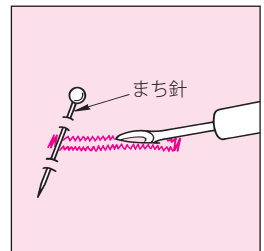
※ボタン穴の2個目からは布地の次の印に合わせて、押えをさげてぬうことができます。

9 ぬい終わったら糸を切ります。



糸切りボタンを押します。

10 リッパーで穴をあけます。



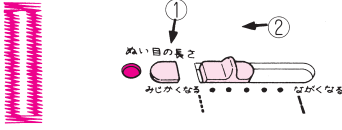
切りすぎないようにまち針を使うと失敗しません。



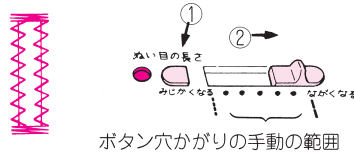
### ●ぬい目の長さの調整方法

※デニムなどの厚地や太糸を使用してボタン穴かがりをぬうときは、ぬい目の長さを自動位置より粗めにします。

ぬい目の長さを細かくするには！



ぬい目の長さを粗くするには！

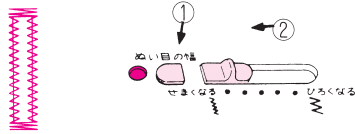


ボタン穴かがりの手動の範囲

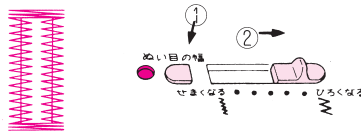
### ●ぬい目の幅の調整方法

※ぬい途中での、ぬい目の幅の変更はできません。

ぬい目の幅をせまくするには！



ぬい目の幅をひろくするには！



## ■ダーニング

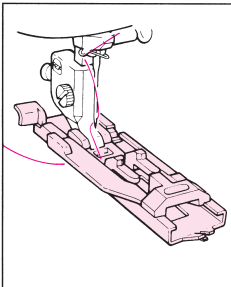


**注意**

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

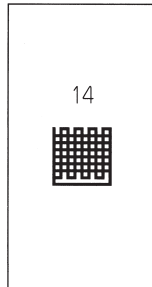
かぎざきの補修・つくろいに使います。

**1** 押え (E) をセットします。

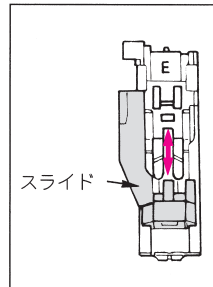


上糸を押えの下へくぐらせ横へ出します。

**2** 模様を選びます。

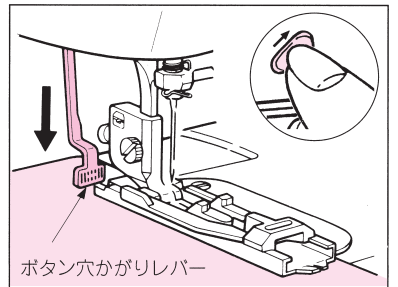


**3** ダーニングの長さを決めます。



スライドを動かして長さを設定します。

**4** ボタン穴かがりレバーをさげ、スタートさせます。



レバーを止まるまでさげます。

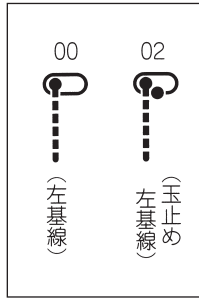
## ■ファスナーつけ

ファスナーつけは一般的に脇あきファスナーつけと、つき合わせファスナーつけがあります。

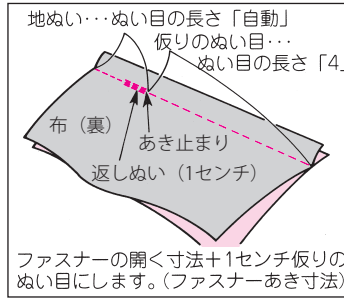
### ⚠️ 注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

### 1 模様を選びます。

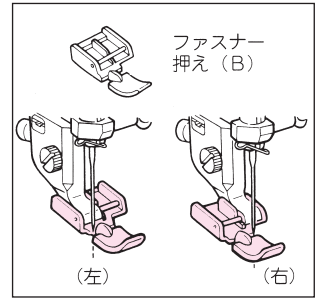


### 2 基本押え (A) を使ってぬいます。



布地を中表に合わせて、地ぬいと取り付けるファスナーの寸法を確かめて仮りぬいをします。

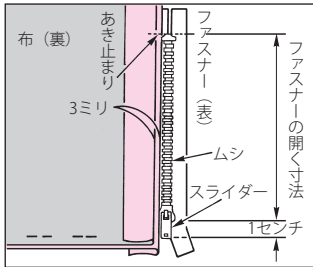
### 3 ファスナー押え (B) をセットします。



ファスナーの左側をぬうときは、押えの右へセットします。右側をぬうときは、左へセットします。

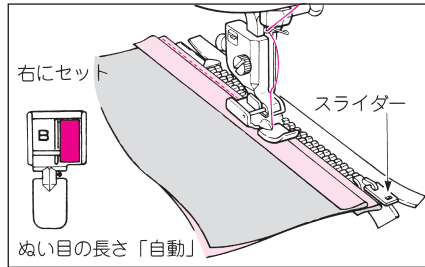
## 脇あきファスナーつけ

### ①ぬいしろをわります。



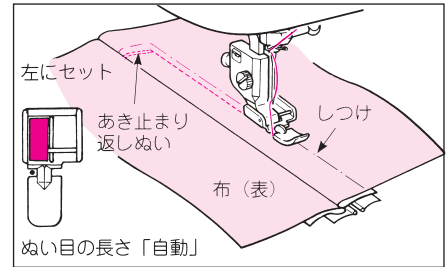
ぬいしろをきちんとわり、後ろ布のぬいしろを3ミリ出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をムシのきわにあてます。

### ②ファスナーの下方から上方にぬいつけます。



押えの端をムシのきわに当ててぬいます。ファスナーのスライダーのところは手前5センチくらいでミシンを止め、スライダーを押えの向こう側へさげて、端までぬいつけます。

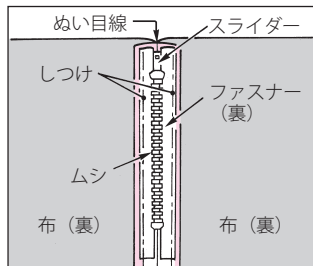
### ③上布をファスナーの上にかぶせしつけをしてからぬいつけます。



スライダーを引き上げて、上布をファスナーの上にかぶせてしつけをします。あき止まりに返しぬいをして図のようにぬいます。スライダーのところは仮のぬい目をほどこしてスライダーを下げ、残りをぬいます。

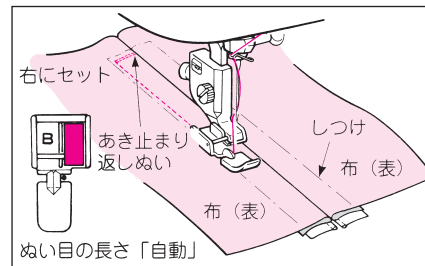
## つき合わせファスナーつけ

### ①ファスナーをしつけます。

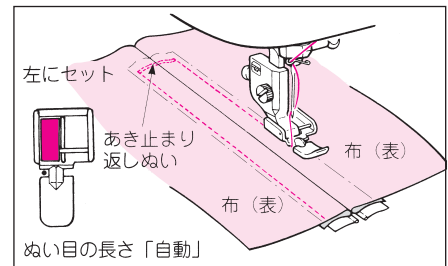


ぬいしろをわり、ぬい目線にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけをします。

### ②左側をあき止まりからぬいます。



### ③右側をぬいます。

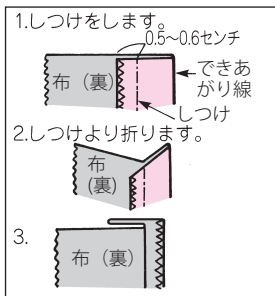


ぬい終わりましたら仮りのぬい目をほどこします。

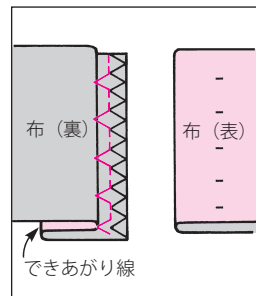
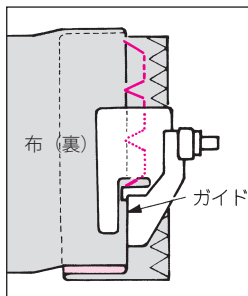
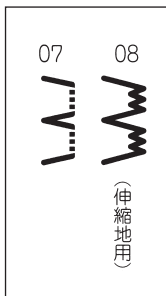
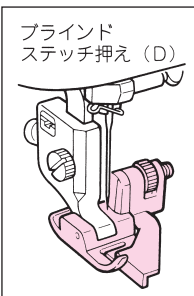
## ■まつりぬい (ブラインドステッチ)

**▲注意** 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

- 1 裁ち目かがりをして布地を折ります。
- 2 押えをかえます。
- 3 模様を選びます。
- 4 押えのガイドに当ててぬいます。
- 5 布地をかえします。



裁ち目かがりは14ページ参照



押えのガイドを折り山にぴったり当ててぬいます。ぬい終わりましたら布地を折り返します。

### ●ブラインドステッチ押えのガイド調節方法

**折り山にぬい目がかからない場合**

ネジを手前に回すとガイドが右へずれます。

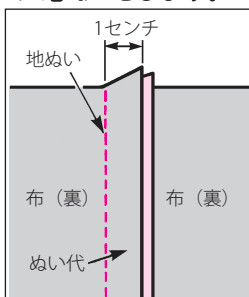
**折り山にぬい目がかかりすぎた場合**

ネジを向こう側に回すとガイドが左へずれます。

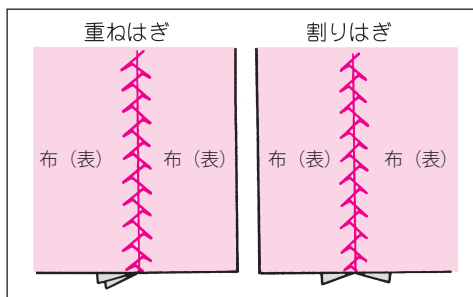
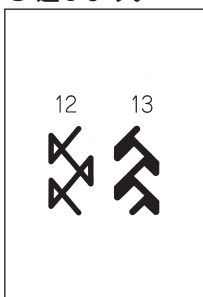
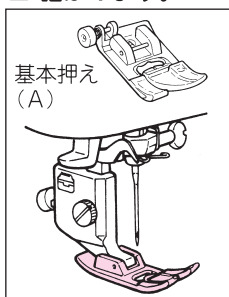
## ■パッチワーク

**▲注意** 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

- 1 地ぬいをします。
- 2 押えを確かめます。
- 3 模様を選びます。



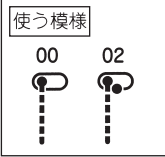
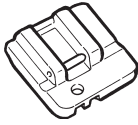
2枚の布地に地ぬいをします。



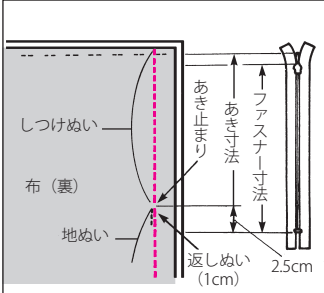
両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

## ■別売品のご紹介

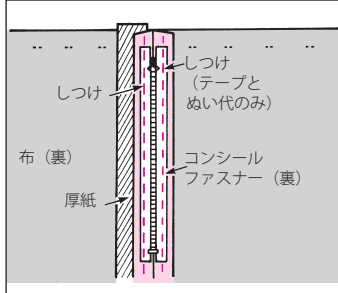
### コンシール押え



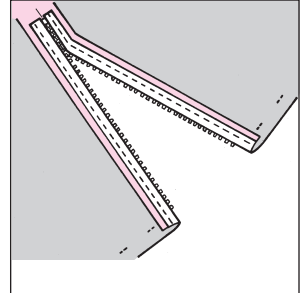
1 ファスナーあき寸法を確認  
基本押え (A) でぬきます。



2



3



ファスナーのぬい目が布地の裏に出ないので、つき合わせの状態、あきの始末ができます。

布地を中表に合わせ、布端よりあき止まりまでしつけぬいをします。あき止まりからぬい目を(2.4)に変えて、1センチ返しぬいをし、所定の位置までぬいます。ぬいしろをきちんとわります。

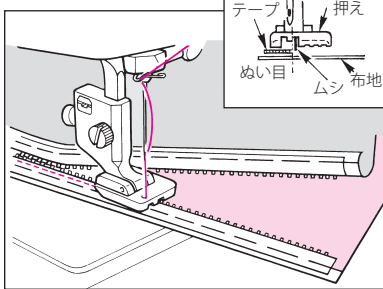
ぬい目線の上にコンシールファスナーの中心をのせて、ぬいしろと表布の間に厚紙を入れ、ぬいしろとファスナーテープを両側とも手のしつけでぬい止めします。しつけが終わったら厚紙をとります。

1図のあき止まりまでぬったしつけぬいをほどき、ファスナーを開きます。

### ⚠注意

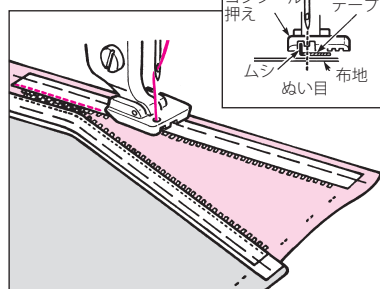
押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

4



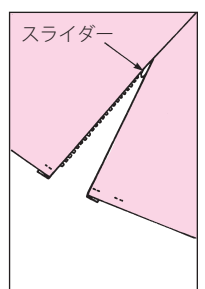
一方のファスナーのムシを、押えのみぞに合わせます。指でムシを立てるようにします。ムシのきわに、あき止まりからミシンをかけます。

5



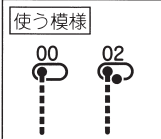
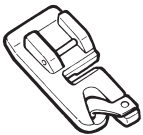
もう一方のぬいしろも同じ方法でぬい合わせます。(ファスナーテープのあき止まりから下の部分は、ぬいしろにぬいつけられずに残ります。)

6



スライダーを中より出し、上に引きあげます。

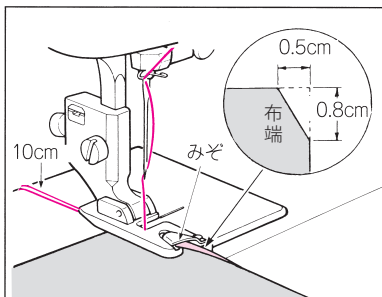
### 三ツ巻き押え



### ⚠注意

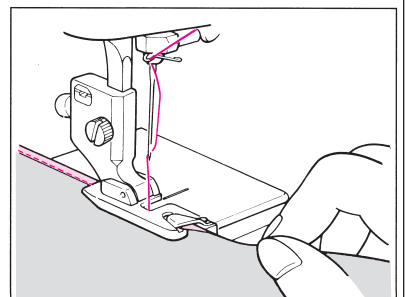
押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1



布地を巻き込みやすくするために角を少し切ります。押えのうず状のみぞの中に、布地を針がとどくところまで入れてから、針をおろして押えをさげます。

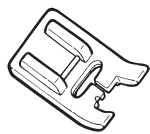
2



上下の糸端を左手で引き、手ではずみ車を3~4回まわします。正しく巻き込まれたら、右手の親指と人さし指で布地をつまみ、常に適量がくり入れられるようにしてぬっていきます。

布端を三つ折りにしながらぬっていく方法で、シャツやブラウスの裾、フリルやハンカチの縁の始末などに使います。

手動BH押え



使う模様

15

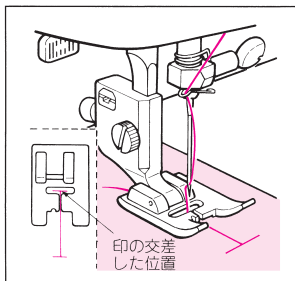


厚地の布を使った短冊あきや台衿の部分に穴かがりをする場合に用います。

**注意**

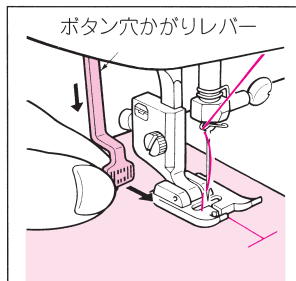
押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1



布地にボタン穴かがりの印をつけます。針をあげたまま、印の交差した位置を、押えの針穴の中心に合わせて、押えをさげます。

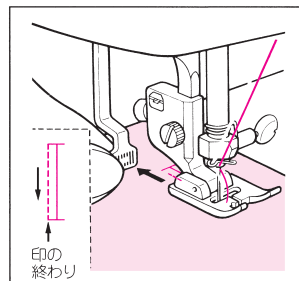
2



ボタン穴かがりレバーをさげて軽く手前に引き、スタートボタンを押して、ぬい始めます。

●左側の直線ぬいがはじまります。

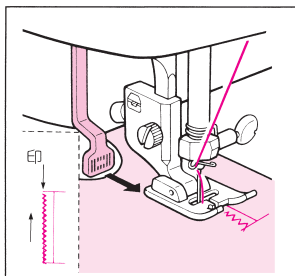
3



印の終わりに針がでたとき、ボタン穴かがりレバーを向こう側に軽く押します。

●バックで左側のぬいがはじまります。

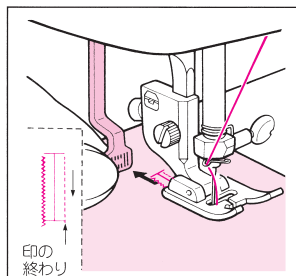
4



最初の印に針がきたとき、レバーを軽く手前に引きます。

●右側の直線ぬいがはじまります。

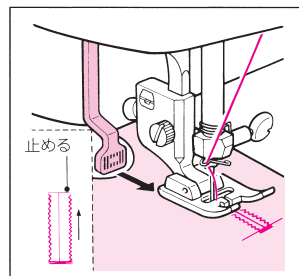
5



印の終わりに針がきたとき、レバーを向こう側に押します。

●手前のカン止めをぬってバックで右側のぬいがはじまります。

6

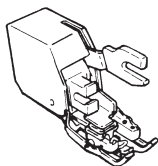


最初の印に針がきたとき、レバーを軽く手前に引くと、カン止め、止めぬいをして止まります。

ご注意

1. 布がレバーに触れないようにします。レバーが押されるとカン止めに切り変わってしまいます。
2. 失敗したときは、ミシンを止め、模様選択キーをもう一度押しますと、最初から、ぬうことができます。

布づれ防止に...  
上送りアタッチメント



使う模様

00

02

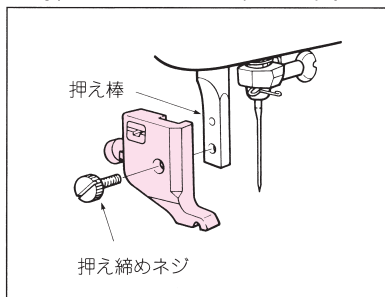


**注意**

押えホルダーや上送りアタッチメントの取り付け取り外しには、電源スイッチを切ってください。

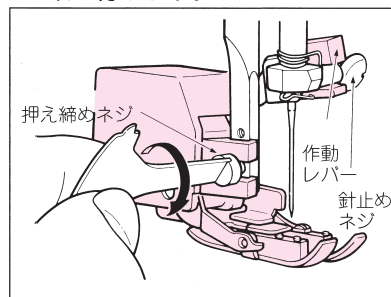
一般にミシンで送りにくい素材(ニット、ジャージー、ビニールクロス、人工皮革、皮など)に使用します。滑らかな送りで布ズレを防ぎ、きれいなぬい上りになります。

1 押えホルダーをはずします。



押え棒をあげて、押え締めネジをはずし、押えホルダーをはずします。

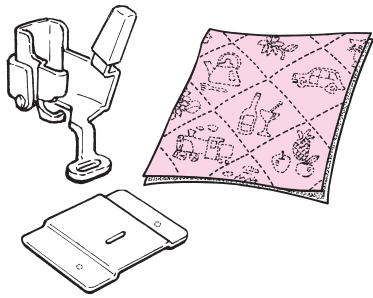
2 上送りアタッチメントを取り付けます。



作動レバーの二また部分を針止めに入れ、とりつけ部を押え棒にはめこみ、押え締めネジをしっかりしめます。

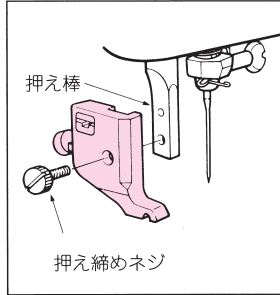
※ぬい速度はゆっくりから中ぐらいでぬいます。

キルトアタッチメント

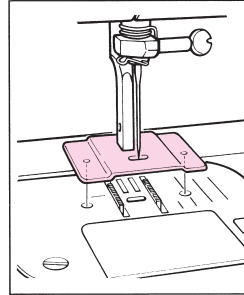


キルト芯を入れてオリジナルキルトが作れます。フリー刺しゅうにも最適です。

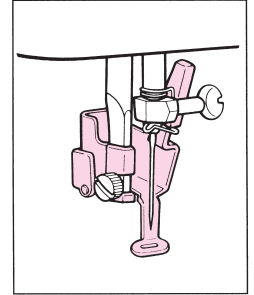
1 押えホルダーをはずします。



2 針板カバーを取り付けます。

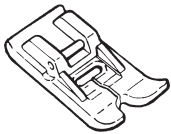


3 キルト押えを取り付けます。



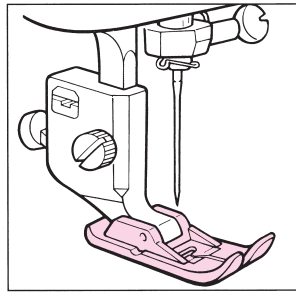
**注意** 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

スムーズ押え



スムーズ押えはすべりが良いため送りにくい素材（ジャージ、ビニールクロス、皮など）に適します。

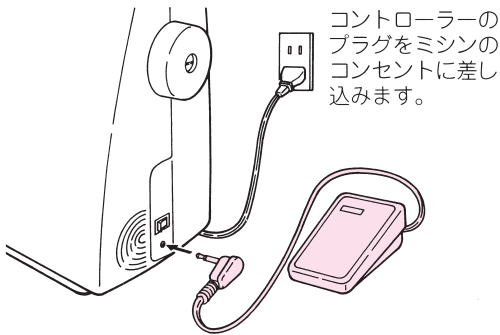
**注意** 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



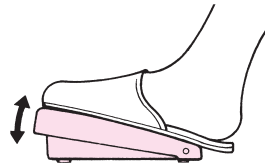
コントローラー

**注意** ミシンにセットしてあるコントローラーの上に物をのせないでください。

コントローラーを使いますと、スタート、ストップ、スピードコントロールが足の操作で行えます。



コントローラーのプラグをミシンのコンセントに差し込みます。



コントローラーを深く踏むと速くなり、浅く踏むと遅くなります。足をはなしますと、ミシンは止まります。  
 ●針は布に入ったまま止まります。  
 ●スタート・ストップボタンはストップのみ有効です。  
 ●返しぬいをするときは、返しぬいスイッチを押します。

仕様表

項目	仕様
本体寸法	幅400×高さ280×奥行175 (mm)
ケースセット寸法	幅430×高さ290×奥行190 (mm)
重量	8.5kg (ケースセット時 9.2kg)
定格電圧/消費電力	100V/80W 50/60Hz
ランプ消費電力	12V/5W

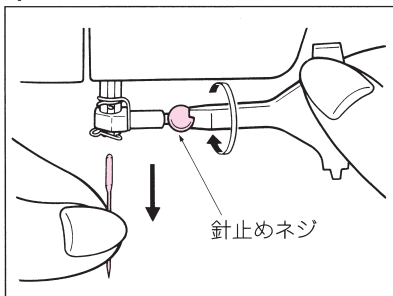
## ■針の交換



**注意**

針の交換のときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。

### 1 針のはずし方

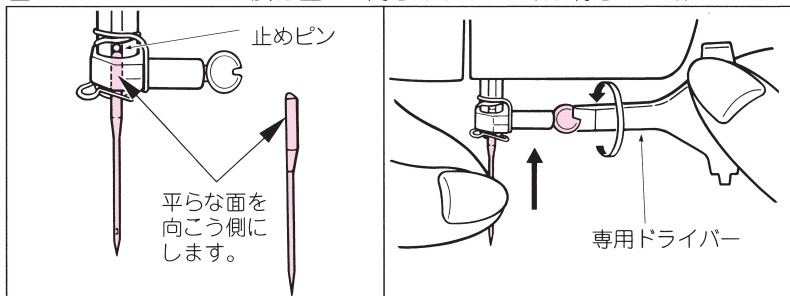


- ① 針棒を最上部にあげます。
- ② 針止めネジをゆるめます。

#### ●針の選び方

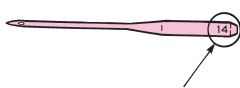
針をお買い求めの際は、家庭用ミシン針のHA×1またはHA×1SP（ニット針）を指定します。

### 2 針の取り付け方（針が正しい向きでないと、取り付けません）

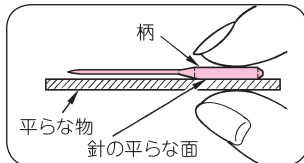


- 針の平らな面を向こうにして止めピンまで差し込みます。
- 針止めのネジをかたくしめます。

#### ●針の調べ方



太さの番号表示  
数字が大きくなると針が太くなります。



すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしましょう。

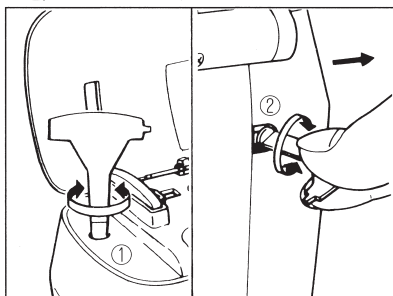
## ■ランプの交換



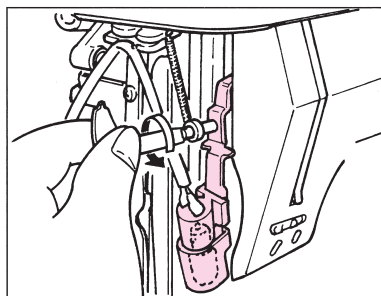
**注意**

- ランプの交換のときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。
- ランプは冷えてから交換してください。

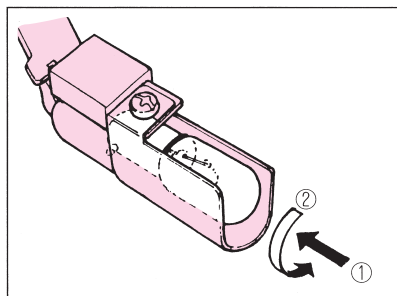
### 2ヶ所のネジをゆるめて 面部カバーをはずします



面部カバーの上側と後ろ側の2ヶ所のネジをゆるめて、横にまっすぐぬぎます。



ランプの元を止めているネジをはずして、ランプ部をとり出します。



ランプを押して矢印の方向に回してはずします。  
※ランプ消費電力5W（12V）  
※ランプは、お買い上げ販売店でお求めください。

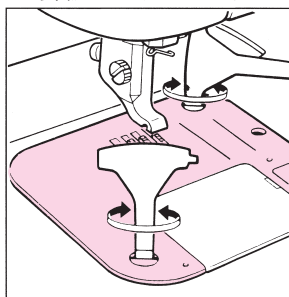
## ■お手入れ（掃除）



**注意**

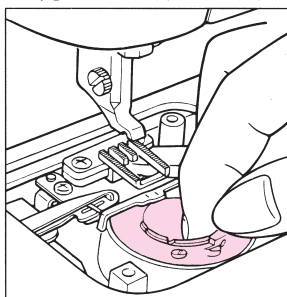
ミシンのお手入れをするときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。

### 1 針板をはずします。

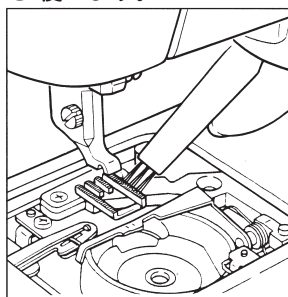


針や押えをはずしてから針板をはずします。

### 2 内かまをはずします。

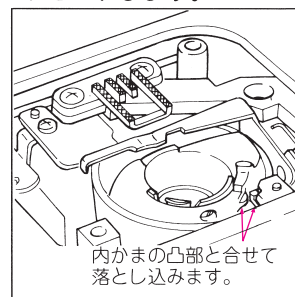


### 3 ブラシなどを 使います。



送り歯とかまの中や周辺をきれいにします。たくさんたまってしまったときは掃除機を使うときれになります。

### 4 内かまを セットします。



内かまの凸部と合せて落とします。

## ■故障かな……というときは

下記のことをお調べのうえ、それでも具合の悪い場合は、お買い求め販売店にご相談ください。

症状	原因（理由）	処置方法	参考 ページ
布を送らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ミシンが空転している</li> <li>●ぬい目の長さが手動の左端になっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●糸巻き軸を左へ戻します</li> <li>●自動か手動の左端より右側にします</li> </ul>	6 9
針が折れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●針が曲っているか取り付け方を誤ったとき</li> <li>●押えと選んだ模様が合わないとき</li> <li>●針、糸、布地の関係が悪いとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●針を交換し、正しく取り付けます</li> <li>●模様に合った押えを使います</li> <li>●布地に合った針と糸を使います</li> </ul>	22 8 10
上糸が切れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●糸のかけ方が間違っているとき</li> <li>●糸が必要以外の所へからんでいるとき</li> <li>●上糸の調子が強すぎるとき</li> <li>●針が曲っているとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正しくかけ直します</li> <li>●糸立棒・糸案内などからんでいるか調べます</li> <li>●糸調子を合わせます</li> <li>●新しい針にとりかえます</li> </ul>	7 — 10 22
下糸が切れる ぬい目とぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●針のつけ方が間違っているとき</li> <li>●針が曲っているとき</li> <li>●糸のかけ方が間違っているとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正しくとりつけます</li> <li>●新しい針にとりかえます</li> <li>●正しくかけ直します</li> </ul>	22 22 7
ぬいじわが出る	<ul style="list-style-type: none"> <li>●糸調子が強すぎるとき</li> <li>●布地と針と糸が合っていないとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●糸調子を合わせます</li> <li>●正しく合わせます</li> </ul>	10 10
布の裏側にタオル状に 糸がからんでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●糸のかけ方が間違っているとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正しくかけ直します</li> </ul>	7
回転が重く、音が高い	<ul style="list-style-type: none"> <li>●かまに糸くずがたまっているとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●かまを掃除します</li> </ul>	22
スタート・ストップボ タンを押してもミシン が回らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●糸巻軸が下糸巻き状態になっている</li> <li>●コントローラー（別売）がセットされている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●糸巻軸を左側に戻します</li> <li>●コントローラーでスタートさせるか、取り外します</li> </ul>	6 21
糸通しができない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●針が上にあがっていないとき</li> <li>●針をとりつけるとき上までつき当ててないとき</li> <li>●糸通しレバーをさげたまま（糸通し中）誤ってミシンを回してしまったとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●はずみ車を回して、針を最上点にあげます</li> <li>●針を正しくとりつけます</li> <li>●はずみ車を手でわずかに向こう側（ぬう時と反対）に回します</li> </ul>	7 22 —

## ■アフターサービスと保証

- このミシンには保証書がついています。
- 保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
- 保証期間中は、お買い上げの日から1年間です。ただし、マイコン基板は2年間です。
- 保証期間中でも有料になることがありますので、ご了承ください。（保証書に詳細を記載してありますので、そちらをご覧ください。）
- 保証期間経過後の修理につきましては、販売店にご相談ください。  
当社は、このミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り時点から最低8年間保有しています。

# JUKI

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、お買い上げのお店、または下記のお客様相談室へお問い合わせください。

フリーダイヤル

☎ 0120-677-601

年末年始・夏季休暇・祝祭日を除く

平日（月～金）9:00～12:00、13:00～17:45

Copyright © 2005-2011 JUKI CORPORATION

本書の内容を無断で転載、複製することを禁止します。

A9250T47000A-2

JUKI 株式会社

〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1

001111